

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471200303		
法人名	特定非営利活動法人 快		
事業所名	グループホーム快 豊里		
所在地	宮城県登米市豊里町新田町29		
自己評価作成日	令和 4 年 3 月 2 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4 年 3 月 24 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域に貢献し、登米市管轄指導に沿った事業所・ご家族・利用者様の関係を構築し、より良い日常生活を送れるように整備しております。また法人理念はもとより施設内目標を明確にし、すべての従業員に自覚させ利用者様に快いサービス提供をさせて頂いております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>2002年に開設した「グループホーム快豊里」は、JR陸前豊里駅から南東へ1kmほどの所にある。ホームの北側には登米市立豊里病院や市立豊里小中学校があり、南には旧北上川堤に広がる豊里水辺の公園がある。「こころよい快護」を理念に掲げ、「その人にとって良い生き方」や「その人らしく生きる」ことを大切にケアに努めている。入居者が持つ背景に配慮しながら「本人の不安を和らげる」ことや「家族の理解を得る」ことなど、それぞれに合わせた支援の仕方に取り組んでいる。目標達成計画の「地域密着サービスの意義の再構築」については、コロナ禍のため具体的達成には至らなかった。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に周知するようにしている。また住基法で保護されるケースの利用者などが実在していた時には法人並びに従業員一同教訓になりました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に内容を細かく説明し、ご質問やご相談にはその都度対応するように心がけております。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の全体会議において法人理念を再認識させ、事務所内に掲示しその上でユニット理念を基にサービス提供するよう整備し家族から要望などを聞くようにしている。	コロナ禍の状況を見ながら面会に応じており、現在は中止の状態にある。入居者の様子を写真付き便りで個別に送っている。届け物など来訪の折に、入居者から家族に伝えたいことを聞き仲介している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を行うほか、日々の会話の中で意見や要望を聞き反映させている。	個人面談では、会社方針や勤務体制を伝え、要望が言える機会にもなっている。意見を反映して冷蔵庫の買い替えをした。入浴業務について意見があり、話し合った。職員の事情でシフトを変更することもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人が中心となり従業員がより良い環境下での業務ができるように体制を整備しております。なぜなら利用者様に快いサービスを提供することが理念のためです。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	病院地域連携室、研修センターの研修を受ける機会を設けている。また月一の会議上、施設所長が議長となり社会人としての心構え等の勉強会を開催している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍に於いて現在控えております。また、入退所時において紹介先より情報交換する時に地域の情報交換を併せて行っております。	法人事業所同士で交換研修を行っている。介護支援センターとプラン作成や空き室情報を交わしている。ケアマネ連絡会から、研修案内や感染予防のメールが来る。病院の地域連携室から、退院後ケアの助言があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や要望に耳を傾け、安心して快い生活ができるよう信頼関係の構築に取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナ予防対策のため施設内見学は控えて頂いております。入居前にご自宅に訪問し、家族が困っていることや不安なことに耳を傾け安心・信頼の関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	15. 16同様に説明と、将来的なご家族様の意向も踏まえるようにしております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存機能や生活習慣、又は経歴などを活かして、共に快く過ごせる関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム便りや生活状況を書面でお知らせしたり情報の共有に努めている。また本人の意向を伝えるなど本人と家族の関係性を大切にしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、面会等は控えて頂いておりますが、面会緩和など指示があった場合は予防対策を厳重にし、家族・親戚・地域の方にお気軽に会いに来て頂いたりしております。またなじみの場所の把握に努めている。	入居前の環境に近い生活を意識して、居室に馴染みの物を置いてもらっている。農家だった人に草取りなどをしてもらい、遣り甲斐を持ってもらっている。見慣れた街並みのドライブ後に、回想する会話をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく相性が合う方同士で座れる環境を作り、何かの行事・作業では利用者様同士の交流ができるように意図的介入をすることもあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後もこれまでの関係性を大切にしながら、必要に応じ相談や支援などサポートしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者与时折面談を設け、本人の希望や思いを確認すると共に、利用者全員が帰宅されたいが願望が叶わない状況の説明等を構築している。	「昔はよくやった」と踊った話を聞き、クリスマスに披露してもらった。幻視のある入居者の話を否定せずに共感し、したいことを一緒にしている。自分の認知症状を心配する人の、不安を和らげる対応に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前から前担当ケアマネまた家族様を通して生活歴を把握し、介護サービスを利用された方などはその内容も施設の職員に経過等説明し以前に近い生活環境をサービスに反映させています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で一人一人の過ごし方・現状を把握し、安心して快い生活を送れる環境作りに努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本ケアカンファレンスを通してモニタリング・アセスメント・課題の分析を行い、日頃の利用者とかかわりの中で希望・訴えを集め、家族・主治医とはかかわりがある時意見交換・相談を行い、介護計画に反映している。	計画目標のポイントに、「本人が快く暮らす」ことを上げている。会議で課題と思われる意見が出れば、随時見直しを図っている。排泄状況の観察など医師の指示や料理がしたいなど本人の希望も盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に気付き・希望・実践・工夫等を記入し、担当者会議内で情報を検討して共有しながら実践・介護計画時に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応し柔軟な支援ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かに暮らせるよう、一人一人の暮らしを支えている地域資源の把握に努めている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を確認の上、在宅診療所による訪問診療に6名の方を管理して頂いているが他の利用者も希望されているが待機中である。	表情などの健康観察から1日が始まる。声のトーンがいつもと違うなど、些細な変化も見逃さずに対応している。痰の色変化を看護師に相談するなど、連携している。受診後に「受診結果レポート」を家族に送っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	診療所の看護師と密に連絡を取り合っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入・退院時は家族と入院先の医療関係者・地域連携室担当者と情報交換・相談に努め、入院中でもできる範囲内の事を支援している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設としてできること、できないことを主治医・ご家族・施設三者協議時に於いて説明し理解して頂いている。	看取り介護に関する指針がある。ホームが行う看取り介護について、「身体的ケア・精神的ケア・社会的ケア」を説明している。終末期の場所や急変時の対応について意向を確認している。看取りに立ち会った職員の意味や解釈を考える研修を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応についてマニュアルを通じて周知するようにしております。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ感染予防対策のため、地域の訓練は中止となったが、避難所の確認は継続し、従業員全員が共有している。	夜間想定を含む年2回の避難訓練を実施した。行動要領を作成し、役割分担や避難経路などを決めている。夜勤者1人での対応が困難なことや避難所への移動に検討が必要等の反省があった。実施記録はない。	要領を基に、実行した訓練がどうだったのか、反省や課題検討の余地はなかったのかなどを振り返り、次回に活かすためにも実施記録に残すことをお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーや誇りを損ねないよう対応し、声掛けに配慮している。	本人のしたいことを聞いたり、家族から趣味のことを聞いて活動に取り入れている。車いす自走をできない人が足漕ぎで自走できるようにするなど、その人の持つ力の発揮を支援している。否定せず傾聴している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	グループホーム快では「止まって聴く」・「常に本人様が本音で軽く話せる雰囲気を作る」・「決定権は本人様と家族様にある」を実践している。但し、本人様の危険の恐れがある選択については時間をかけて説明して納得できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、一人ひとりの希望をもとに臨機応変に対応するよう心がけております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	思いや希望など会話の中から把握できるよう努めている。難しい方は表情を見たり生活歴などから本人本位で検討するようにしている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聞いたり、下ごしらえを共にしたり、食器拭きを日課にしている方もいる。	職員が1週間分の献立を考えている。彼岸の小豆はつとや年越し蕎麦、誕生会に好きな焼肉にするなど嗜好を取り入れている。市担当課に献立表を見てもらい、「塩分を控えめに」など助言をもらったことがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	担当者が1週間ずつ、栄養を考慮した献立を作成しております。食事・水分の状態は記録をし把握に努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き・口腔ケアはお声をかけて全員実施しております。夕食後は入れ歯の洗浄・消毒も行います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別排泄表を活用し、個々の排泄パターンを把握するようにしております。排泄パターンや兆候に合わせ、支援を行ったり誘導をするようにしております。	排泄感覚のない人には、記録を活用して誘導している。その際は、言葉の掛け方や声の大きさに気を付けている。お尻を上げるなどの仕草を見て誘導することもある。夜間のみリハパンを利用する人がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールのため、主治医より頓服薬を処方して頂いておりますが自然排便を目標に食事メニューに工夫(乳酸菌・繊維物等取入)を行うと共に身体機能に負荷がかからない様な適度な運動なども取り入れております。便秘症の方には頓服薬にて対処しております。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	希望者には毎日入浴できるよう配慮しております。重度の方には二名のスタッフで入浴を対応し、事故防止に努めております。	週2回の入浴を目安にしている。一番風呂や終い湯に入るなど、本人の希望に合わせている。気分が乗らない時は、時間をずらして誘うなど無理強いはしていない。浴室で鼻唄を歌うなど寛いでいる様子がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活歴や、その時の状況に応じて快くゆっくり休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医指導の下、薬の目的、副作用、用法について職員間にて共有・理解を念頭に症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内の生活ではリズム感を作り、その中で一人一人が個性を持って自分の力発揮ができるように役割りを作り、行事では気分転換が図れるような支援として利用者様から「昔はよくやった」と話された事を提供することが多い。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ感染予防対策期間に伴い現在は、外出を控えておりますが、ドライブを実施しております。	玄関前にベンチを置き、外に出る機会を作っている。重度の人が外出を遠慮することもあり、「一緒だよ」と引け目を感じさせない誘い方をしている。全員や小グループなど、状況に応じて調整し、南方の花見や平筒沼の蓮祭、柳津の寺院等々多く出掛けている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いとしてホームで個人個人のお金を管理させて頂いているが必要に応じ本人様の希望があれば家族との連絡を取り、了解を頂いた上で使うよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある場合は、可能な限り電話や手紙などの支援を行う方針です。現在は事例がありません。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関・廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・廊下・居間・台所・ホール・浴室・トイレ等は清潔感を優先とし、不快に感じないように配慮している。ホールは生活感や季節感を感じて頂けるように写真・本棚等で飾っている。またこの度玄関ゾーニング環境整備を実施し、更に、共有空間の雰囲気が増したと思います。	ホールの空調管理は、エアコンやファンヒーター、自然換気で行っている。ホールに、雑段のタペストリーを掛けており、七夕やクリスマスなど慣例行事の飾り物で季節を感じ取れるようにしている。ホーム前庭での夏祭りは、皆が浴衣を着て花火大会など楽しんだ。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにテーブル他、ソファを置き、玄関にもベンチを置くなど好きな場所でゆっくり過ごせるよう配慮しております。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人さまにとって馴染みのあるものはご自宅より持ってきていただくようにご家族様にはお話ししております。思い出の品や家族写真など飾らせていただくこともあります。	各部屋には、クローゼットや洗面台、ベッド、エアコンが備えてある。全室に、足元センサーを置いて死角を補う安全確保をしている。自室ではテレビを見たり読書や模様替えなど、好きなように過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様とのコミュニケーションを通して得た情報を元に本人様の好きな事・やりたい提供・自立支援の主な内容として提供するのを基本としている。		